

第20回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和8年3月13日(金)
開会13時30分 閉会14時56分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 教育長 中村 正芳
委員(教育長職務代理者) 上地 玲子
委員(教育長職務代理者) 服部 俊也
委員 中嶋 佳乃子
教育次長 後藤 博幸
教育次長 佐々木 亨
学校教育推進監 室 貴由輝
教育政策課 課長 小林 伸明
副課長 小野 敏靖
総括副参事 滝澤 容彦
教職員課 課長 苅田 直樹
高校魅力化推進室 室長 藤原 紳一
特別支援教育課 課長 江草 大作
- 4 傍聴の状況 1名
- 5 附議事項
(1) 岡山県教育委員会規則の一部改正について
(2) 令和7年度末事務局職員等の人事異動について
(3) 令和7年度末教職員の人事異動について
(4) 公立学校教職員の懲戒処分について
(5) 業務量管理・健康確保措置実施計画について
(6) 岡山県立特別支援学校高等部(本科)入学者選抜制度の変更について
- 6 協議事項
(1) 令和8年度教育施策の概要について
(2) 令和8年度教科用図書選定審議会委員の任命及び諮問事項について
- 7 報告事項

(1) 笠岡地域における新しい高等学校の教育内容等について（第1次まとめ）

8 その他

9 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（1）は人事に関する内容があるため、附議事項（2）（3）（4）は人事案件であるため、協議事項（2）は、教育行政の公正を確保する必要があるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

（特になし）

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項（1）、（2）、（3）、（4）及び協議事項（2）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

附議事項（5）業務量管理・健康確保措置実施計画について

・教職員課長から資料により一括説明

(教育長)

これより採決に入る。議第18号について、原案に賛成の委員について挙手を願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第18号は原案のとおり決した。

附議事項（6）岡山県立特別支援学校高等部（本科）入学者選抜制度の変更について

- ・特別支援教育課長から資料により一括説明

(教育長)

これより採決に入る。議第 19 号について、原案に賛成の委員について挙手を願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第 19 号は原案のとおり決した。

協議事項（１）令和 8 年度教育施策の概要について

- ・教育政策課長から資料により一括説明

(委員)

対象校種のところに対象一覧にない「子ども」という表記の箇所があるが、これはどういう意味なのか。

(教育政策課主任)

校種を限定せず、広く県民全体の「子ども」という意味でこの表記にしている。

(委員)

今後のスケジュールはどのようになるのか。

(教育政策課長)

4 月に議員に対して説明を実施する。その後、市町村や県立学校へ配布することになる。

実際に教員に配布されるのは 4 月頃になる。

報告事項（１）笠岡地域における新しい高等学校の教育内容等（第 1 次まとめ）について

- ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

説明会の対象者はだれか。

(高校魅力化推進室長)

午前午後の 2 部形式で、対象者は限定せずに実施する。

午前は、対面での説明形式、午後は、申込みが必要になるが、説明およびワークショップ形式でグループに分かれて協議を計画している。

(委員)

新校の入学対象となる小中学生や保護者が意見を言える場があるといいと思うが、そういったことも想定しているのか。

(高校魅力化推進室長)

今年度も意見交換会を実施したところ、中学生の参加もあった。市町村を經由して、

中学生等にも周知して、出席してもらえるように努める。

(委員)

- ・県外で参考になるような先進校事例はあるのか。
- ・笠岡商業高校と笠岡高校の両方の校舎を使用するという認識でよいか。

(高校魅力化推進室長)

・プロジェクトチーム会議の中では、校種は異なるが、徳島県の神山まると高専のように起業家精神の育成や地域をまきこんだ探究的な学びが笠岡新校で実施できると良いといった意見もあった。

・設置については、笠岡高校と笠岡商業高校は隣接しているので、一体的に整備しておくことで意見がまとまっている。

(委員)

上級学校への進学や県内の地域企業への就職のニーズはあるので、大事にしてほしい。

(委員)

学校構成で新しい普通科と今までの普通科の違いと、最終的な出口がどうなるのか教えてほしい。

(高校魅力化推進室長)

プロジェクトチームとしては、笠岡高校は地域の進学拠点校として実績があり、大学一般入試に対応する普通科の学びは引き続き必要であると考えている。

一方で、新しい普通科では、総合型選抜や学校推薦等で進学する生徒が増えている現状で、探究学習を充実させ、多様な学びを提供して生徒の進学を後押ししたいと考えている。これまでの笠岡高校の学びを更に深化させた普通科と、笠岡地域をフィールドに探究に力を入れ、その活動を進学に繋げる新しい普通科という違いがある。

(委員)

入学後、普通科と新しい普通科で科を変更することはできるのか。

(高校魅力化推進室長)

検討する必要があると考えている。

今回の第1次まとめは、令和7年4月からプロジェクトチームで検討してきた内容を、ある程度取りまとめた内容の報告であり、今後、4月に説明会を開催し、地域の意見を聞いた上で、県教育委員会として再編整備の方向性を決定する方針を示したいと考えている。

以下、非公開のため省略

閉会